

新しい公共交通システム

～未来の京都の夢を語ろう～

LRT

LIGHT RAIL TRANSIT



京都市

新しい公共交通システムって？

京都市は、日本を代表する国際文化観光都市としての特性を活かし、以下のまちづくりを目指します。

京都市がめざす姿

歩いて楽しいまち

環境にやさしいまち

魅力的で
活力のあるまち

訪れる人が快適に
移動できるまち

京都市の目指すまちづくりを実現するため、「歩くまち・京都」を交通政策の基本理念とし、以下の交通まちづくりを推進しています。

「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン



歩く&自転車に乗る



車から乗り換える



車の利用を控える



車を分散する



観光地の車を減らす

しかし!!

今の京都市の交通状況は…。

- 都心地域では、**慢性的な交通渋滞**が発生しています。
- 鉄道ターミナルの位置が離れていて、**乗換えが不便**です。
- 多くの**観光客**が訪れますが、**交通問題に対する不満**の声が寄せられています。



なぜ今新しい公共交通システムを検討するの？

地球環境の保護や快適な市民生活のため、自動車に依存しすぎない公共交通優先の交通体系を目指しています。そのため、鉄道・地下鉄とバスの中間の機能を有する中量輸送型の新しい公共交通システム導入についての検討が必要です。

LRTって何？

京都市にふさわしい新しい公共交通システムとして、「ひと・まち・環境にやさしい便利な乗り物」であることが求められます。これを満たす乗り物として、

“**LRT (Light Rail Transit, 軽量軌道公共交通機関)**”を検討しました。

L R T の 特 徴

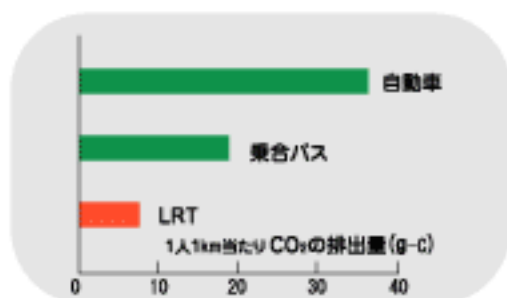
1 バリアフリーに優れ、ひとにやさしい



2 歩いて楽しいまちをつくる



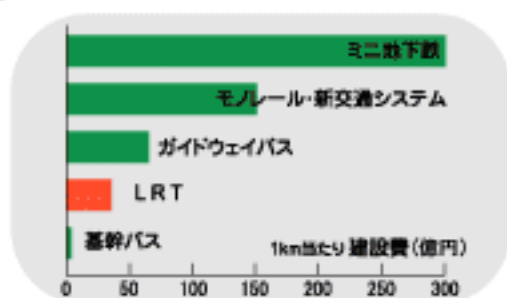
3 空気を汚さず、騒音も少なく、環境にやさしい



4 専用化された軌道を持ち、時間に正確で乗換えも便利



5 建設費が比較的安く、財政にもやさしい



すなわち



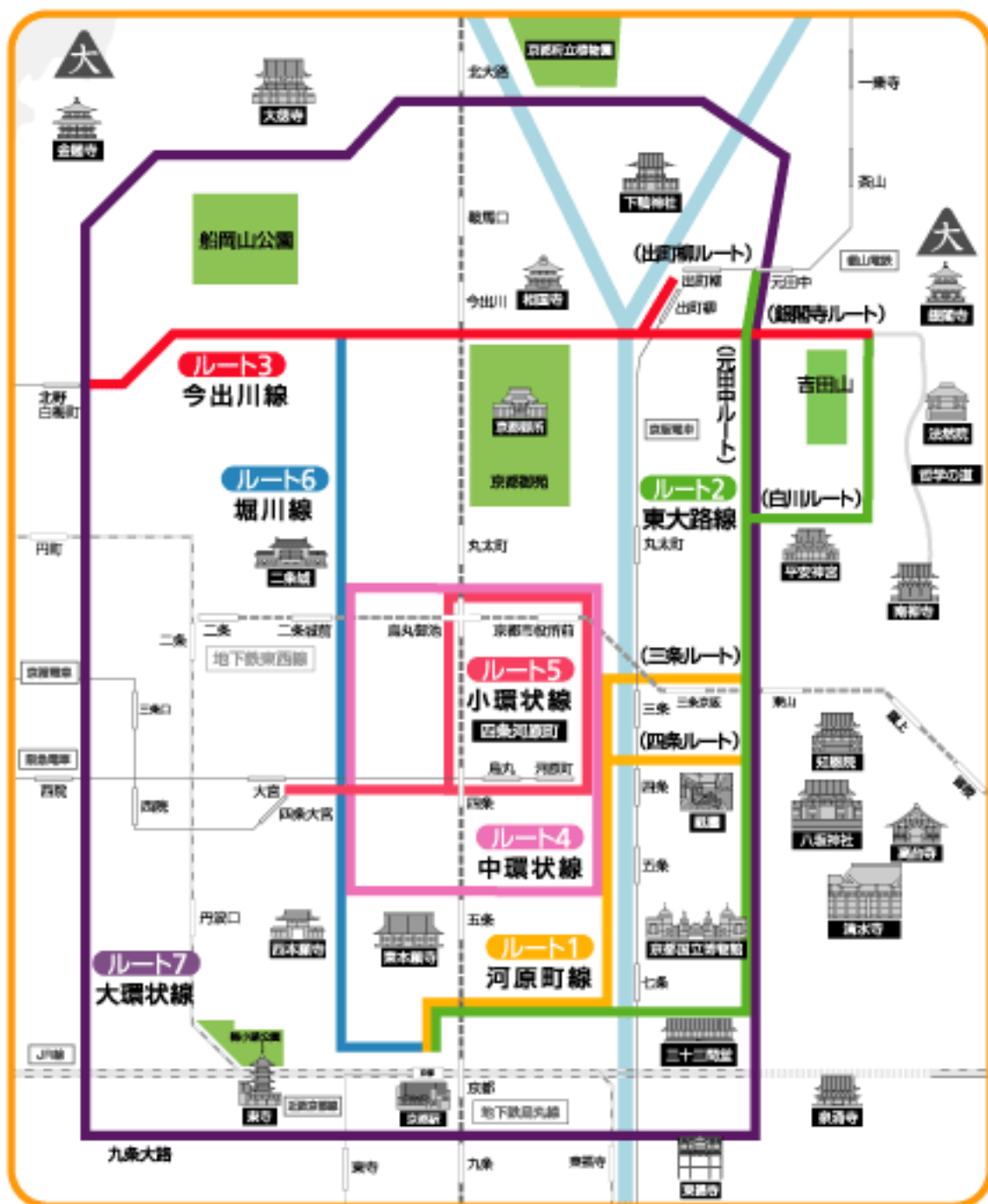
LRTは、新しい公共交通システムで、これからの京都市のまちの顔となる可能性を秘めています。

今後、LRTの検討を深めるなかで、技術的進歩を踏まえた新しい公共交通システムの検討も必要です。



どのような検討をしてきたの？

- 京都市にLRTを導入した場合の課題と対応策を検討するために、具体的に以下の7つのルートを設定しました。
- ただし、このルートはあくまで「LRT導入をした場合の課題を具体的に整理」するために、仮に設定したルートです。



・検討結果の詳細は、ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/tokei/trafficpolicy/lrt/index.html> をご覧ください。

LRTの導入イメージ

京都市におけるLRTの導入は、現在の道路を活用するもので、以下のような形になります。

複線で導入



単線で導入



停留場部



LRT導入による効果は？

- LRT導入により、所要時間が短くなったり、乗換えがしやすくなるなど、市民の皆さんにとってプラスの効果が生じます。
- ただし、自動車交通の混雑による所要時間の増加や、CO₂の排出量の増加などの悪影響が生じる場合もあります。

＋？
それとも？
－

1 市民の皆さんが受ける効果

プラスの効果 所要時間の短縮
乗換えのしやすさの向上 など

2 鉄道事業者が受ける効果

マイナスの効果 道路交通混雑の増加

競合路線の運賃収入の増減 など

3 環境に与える効果

大気環境へ与える影響
交通事故の増減

L R T 導 入 の 効 果

1 既存の鉄道やバスと連携し、公共交通全体が便利になる



2 「歩くまち・京都」の実現により、中心市街地の活性化につながる



3 京都市の新しいシンボルとして、快適な都市空間を提供する



4 渋滞に巻き込まれず、時間どおりに市内を移動することができる



LRTを走らせるために解決すべきことは？

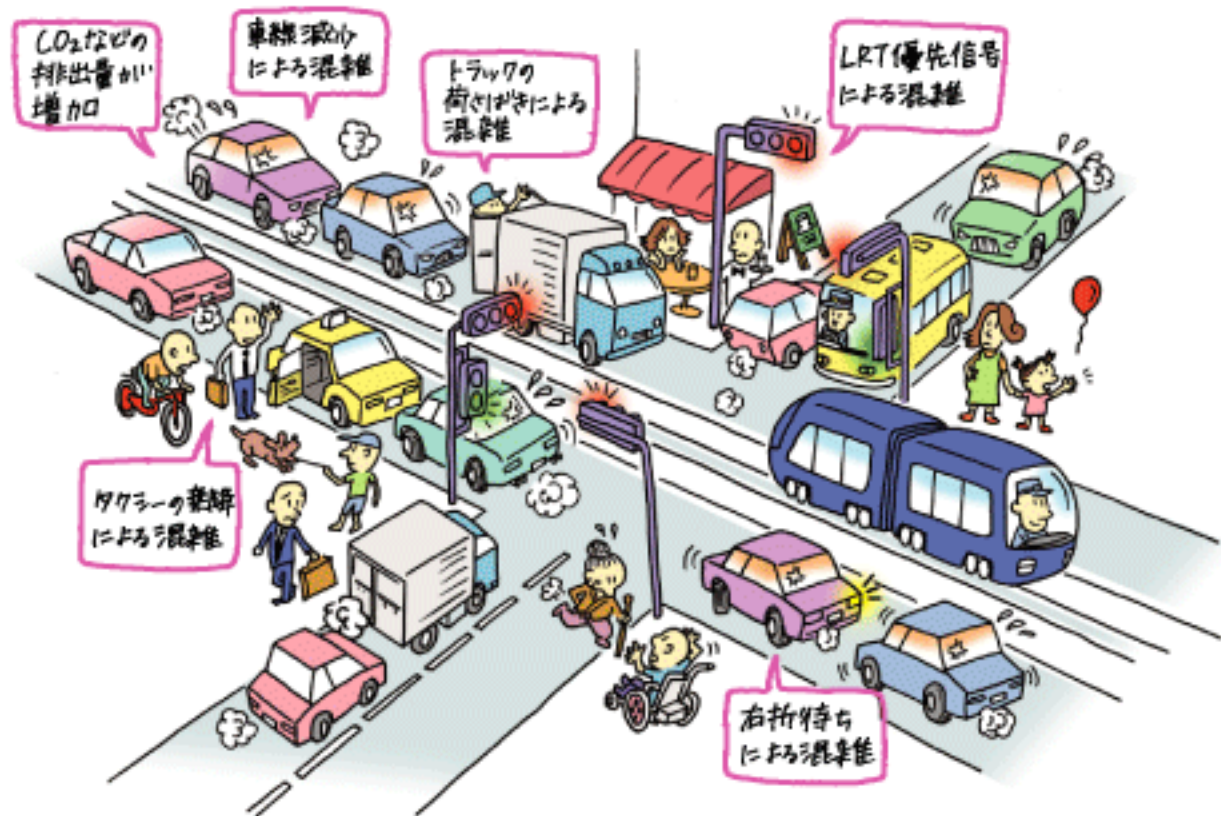
課題1

自動車交通に与える影響と課題

車線減少による沿線及び周辺における道路の混雑

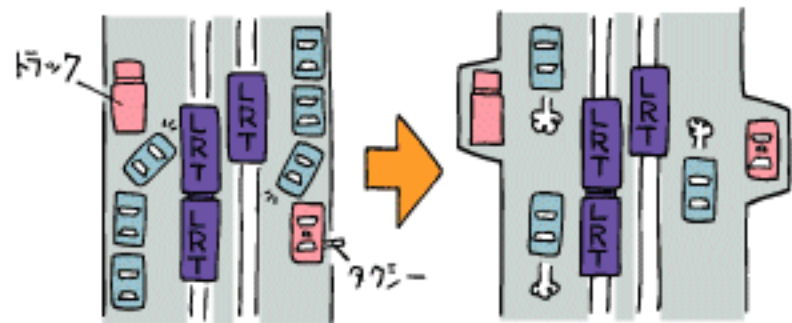
LRTの優先信号や右折待ち等による交差点の混雑

LRT導入に合わせて、自動車の利用を抑制し、渋滞のない良好なまちをつくる必要があります。また、自動車中心の生活から脱却し、公共交通を積極的に利用する取組も必要です。



荷さばきなど駐停車スペースの不足

荷さばきスペースの確保や、共同配送による荷さばき回数の軽減など、物流の円滑化への取組が必要です。



京都市のまちづくりにLRTを活用するには

課題2

LRT導入に向けたシステム構築上の課題

車庫や停留場の設置に必要な用地の確保

公共用地の有効活用や、郊外地区での用地確保などについての検討が必要です。

財源の確保と事業主体の検討

財源の確保のために、国による補助制度など公的支援の拡充や、民間の活力と経営ノウハウを有効に活用した整備手法の検討が必要です。

架線や構造物が景観に与える影響

京都市にふさわしい乗り物とするため、架線や電柱のない新しい技術の導入についての検討が必要です。

課題3

より良好な交通環境の実現に向けた課題

他の交通機関との連携による公共交通全体の利便性向上

既存のバス・鉄道とLRTとの役割分担を明確にし、LRTと他の交通機関が連携することにより、京都市の公共交通全体の利便性向上が必要です。



より魅力ある中心市街地をつくるためのまちづくり

中心市街地の活性化のため、トランジットモールなど「歩くまち・京都」にふさわしいまちづくりが必要です。



これまでの道路や自動車の使い方を工夫すること、より良好な交通環境の実現に向けた努力が必要です。

今後の検討の進め方は？

LRT導入は、まちに大きな変化を起こさせる施策です。まちづくり、福祉、観光、環境などの政策との連携をとりつつ、現行の交通機関の使われ方を根本から見直しながら、その中でLRTの果たすべき役割とその有効性について、市民の皆さんと一緒に議論を行うことが必要です。

1 …… 市民の皆さんに京都市の交通の現状とLRTについて、お知らせします。



2 …… 市民の皆さんと一緒に、京都市の未来のまちづくりとLRTについて、考えていきましょう。そして、LRTを導入した場合の効果と課題について、具体的に検討していきましょう。



おわりに

- LRT導入により、快適なまちづくりの実現が可能ですが、一方で、自動車利用の抑制など、ある程度市民生活に痛みを伴うことも分かりました。
- しかし、公共交通の利便性向上と「歩くまち・京都」の実現、まちの活性化と都心地域の再生という大きな目標の実現に向けて、LRTは京都市の課題を解決する1つの切り札となる可能性があります。
- LRT導入には、自動車交通に与える影響など様々な課題があり、実現のためには、TDM施策（トランジットモール、パーク・アンド・ライド、優先信号など）の総合的な推進や、他の政策との連携を図ることが重要です。したがって、市民の皆さんと、導入に向けて検討すべき課題を共有しながら、議論を深め一緒に考えていきましょう。



京都市都市計画局都市企画部交通政策課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

Tel(075)222-3483 FAX(075)222-3472

ホームページアドレス <http://www.city.kyoto.jp/tokel/trafficpolicy/lrt/index.html>

2005年(平成17年)10月発行 京都市印刷物 第174243号